

令和6年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」 における小林小学校の結果の分析と今後の取組について

スポーツ庁による「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」について、令和6年4月から令和6年7月末までの期間に、5年生を対象として、「実技に関する調査」と「質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、体力等の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科も含め、総合的に子どもの体力向上をめざしています。

1 調査の目的（全国体力・運動能力、運動習慣等調査に関する実施要領より抜粋）

- （１）子供の体力・運動能力等の状況に鑑み、国が全国的な子供の体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- （２）各教育委員会、各国公私立学校が全国的な状況との関係において自らの子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子供の体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- （３）各国公私立学校が各児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

2 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第5学年、義務教育学校前期課程第5学年、特別支援学校小学部第5学年の原則として全児童
- ・大阪市立小林小学校では、5年生 20名

3 調査内容

- ・児童に対する調査

ア 実技に関する調査（以下「実技調査」という。測定方法等は新体力テストと同様）
小学校調査では、以下の種目を実施する。

〔8種目〕 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、
50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ

イ 質問紙調査

運動習慣、生活習慣等に関する質問紙調査（以下「児童質問紙調査」という。）
を実施する。

令和6年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」結果検証

学校の概要

大阪市立小林小	学校	児童数	20
---------	----	-----	----

平均値

5年生	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20m シャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール 投げ	体力合計点
男子	14.55	15.55	30.73	38.36	47.36	9.65	148.91	21.91	49.00
大阪市	15.78	19.09	32.72	38.56	45.05	9.52	147.96	20.45	51.13
全国	16.01	19.19	33.79	40.66	46.90	9.50	150.42	20.75	52.53
女子	12.44	16.00	33.44	39.67	42.89	10.57	135.67	13.44	49.67
大阪市	15.64	18.06	37.62	36.76	34.65	9.83	139.56	12.71	52.47
全国	15.77	18.16	38.19	38.70	36.59	9.77	143.13	13.15	53.92

結果の概要

本校の体力合計得点は、男子は大阪市平均よりも2.13ポイント、全国平均よりも3.53ポイント、女子は大阪市平均よりも2.8ポイント、全国平均よりも4.25ポイント下回る結果であった。「20mシャトルラン」「ソフトボール投げ」においては、男女ともに大阪市平均および全国平均を上回る結果となっている。「反復横とび」においては、女子は大阪市平均および全国平均を上回る結果となっている。

児童質問紙項目「運動やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的に回答した割合は、男子72.7%、女子33.3%となり、大阪市平均および全国平均を下回る結果となった。

1週間の総運動時間が60分未満の児童の割合は、男子、女子ともに0%であった。

これまでの取組の成果と今後取り組むべき課題

児童質問紙項目「あなたにとって、運動やスポーツをすることは大切なものですか」に対して、肯定的に回答した割合は、男子81.8%、女子88.9%であった。また、「中学に進んだら、授業以外でも自主的に運動時間を持ちたいと思いますか」に対して、肯定的に回答した割合は、男子90.9%、女子77.7%であった。

本校では、けがの防止や運動能力の向上のために、体育の授業の導入では、準備運動だけでなくストレッチ運動を入念に行っている。そのため、体育の授業においてけがをする児童は少なくなっているが、児童の柔軟性においては「上体起こし」「長座体前屈」は大阪市平均および全国平均を下回る結果となっている。体育の授業のなかで、ストレッチだけでなく柔軟性を高める取り組みを今後も続けていく必要がある。

また今後は、体育の授業のなかで児童が「できた」「がんばってよかった」と思える場面や、指導者が「上手になったね」と褒める場面をたくさん作り、運動やスポーツを好きになるような意識をもたせ、児童の体力向上につなげていきたい。